

第32回 明治大学社会科学研究所公開シンポジウム

新常態という 社会のあり方

: With, after and before corona

COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の感染拡大以降、社会生活や経済活動のあり方は大きく変化しようとしている。経済の停滞や失業者の増加、医療ならびに学校教育の混乱、将来への漠然とした不安など、社会へのマイナス影響が顕在化している一方で、この感染症をきっかけとして、これまで日本社会の課題として話題に上りながらも一向にその解決の方向性が見えてこなかったさまざまな問題、たとえば働き方改革や女性の活躍、生産性の向上などに、これまでのしがらみや既得権益を離れた取り組みがなされようとしている。

本シンポジウムは、コロナと共に生きる(with corona)新常態(new normal)という現在の社会状況の中で見えてきたさまざまな問題点や今後の社会・経済の展開について、コロナ克服後の社会(after corona)ならびに次に発生する可能性のある新たな社会的脅威(before corona)をも視野に入れ、多角的に検討する。

Zoom
ミーティング

受講料
無料

(参加登録必要)

定員 300名(先着順)

開会挨拶 14:00～ 村田 潔(明治大学社会科学研究所長)

基調講演 14:20～15:50

「COVID-19後の地域、社会、そして我々」

井出 明(金沢大学国際基幹教育院)

調査報告 ① 16:00～17:00

「新型コロナウイルスという日常：
変わったこと、変わらないこと」

折戸 洋子(愛媛大学社会共創学部) 愛媛大学社会共創学部折戸ゼミナール8期生、明治大学商学部村田ゼミナール24期生

調査報告 ② 17:00～17:40

「人類は進歩しているのか：
After and before coronaに向けて」

村田 潔(明治大学商学部)

質疑応答 17:45～18:10

(総司会) 村田 潔(明治大学社会科学研究所長)

申込受付(事前の参加登録が必要です)

2020年11月10日(火)～ ※定員になり次第受付終了

明治大学社会科学研究所ホームページ内

https://www.meiji.ac.jp/sha_ken/kouen/sinpojiumu.html

2020

11.28 | 土 | 14:00～
18:10

基調講演者

プロフィール

井出 明氏

(金沢大学国際基幹教育院)

観光学者。現在、金沢大学国際基幹教育院准教授。これまで近畿大学助教授、首都大学東京准教授、追手門学院大学教授、ハーバード大学客員研究員などを歴任。京都大学経済学部卒、同大学院法学研究科修士課程修了、同大学院情報学研究所博士後期課程指導認定退学。博士(情報学)。社会現象をあえて「影」の視点から分析するダークツーリズムの手法を用いて、多くの論考を発表している。主著「ダークツーリズム 悲しみの記憶を巡る旅」(幻冬舎新書)「ダークツーリズム拡張 ―近代の再構築」(美術出版社)など。



〈主催〉 明治大学社会科学研究所 https://www.meiji.ac.jp/sha_ken/index.html

〈問い合わせ先〉 明治大学社会科学研究所 sha_ken@mics.meiji.ac.jp

